tokudai news

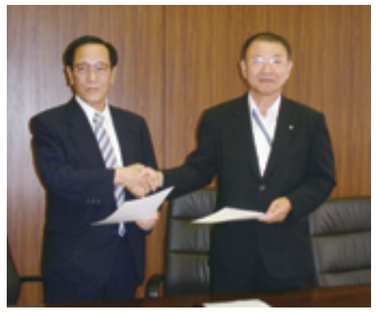
The university of tokushima news

徳大ニュース

2009/10/1～2009/12/31

■上勝町と包括協定締結

勝浦郡上勝町の葉っぱビジネス「いろどり」を中心に相互に連携協力し、地域再生、資源活用、産業振興、人材育成等における人材創出の拠点づくりを形成するため、青野敏博学長と笠松和市上勝町長が、9月3日連携に関する協定を締結しました。

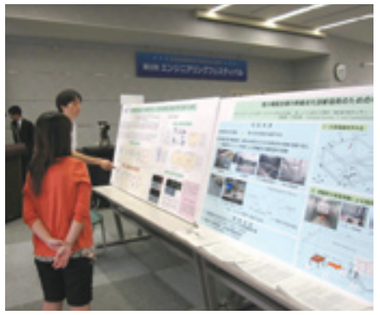


徳島県下及び全国の農村漁村・過疎地等の地域活性化・地域再生の核となる人材育成の創出、地域ビジネス創出のために、徳島大学が取り組んでいるICT（情報通信技術）を活用して地域再生を図ります。

今後、両者が徳島大学地域創生センター内に設けた研究室で「いろどり」のマーケティングや販路開拓方法をテキストにまとめたり、上勝町の空き住宅を利用した「徳島大学上勝学舎」で人材育成講座を開く予定です。

■「エンジニアリングフェスティバル2009」を開催

大学院ソシオテクノサイエンス研究部では9月18日、本年で9回目となる「エンジニアリングフェスティバル2009」を、香川大学工学部、徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部及び知的財産本部との共催で、また（独）科学技術振興機構JSTイノベーション徳島の後援を得て開催しました。



同フェスティバルは、大学院ソシオテクノサイエンス研究部における共同研究の促進と、その研究成果を公開し、地域における科学技術の振興の一助となることを目的としています。また、同研究部の研究活動や研究内容について社会への説明責任を果たすとともに、民間企業からの共同研究のシーズの提案なども視野に入れています。

今回は「重点研究テーマ」を『LEDと応用技術』と設定し、同研究部の研究成果をはじめとする計45件をポスター展示し、それぞれの研究担当教員が説明を行い、学内外から約330人の参加がありました。

■「徳島大学地域交流シンポジウム」開催

地域社会の課題や要請に応えるための地域貢献事業の一環として、10月12日に「地域の笑顔と元気をつくる　あわー（阿波）チャレンジ！広げよう、健康運動の輪」をテーマにシンポジウムを開催し、約130人の参加がありました。

群馬大学教育学部教授の柳川益美氏による基調講演「群馬大学発地域健康づくりサービス」では、群馬大学での取り組みやプログラム、健康づくりに対する色々なサービスや具体的な活動、役割について見解が示されました。

また、「運動は健康を変える、地域を変える」をテーマにしたパネルディスカッションでは、柳川教授をコメンテーターに、徳島県の飯泉嘉門知事、徳島大学名誉教授の島健二川島病院名誉院長、NPO法人あいずみスポーツクラブの鍋島龍夫会長、徳島大学から見解が示されました。

また、「運動は健康を変える、地域を変える」をテーマにしたパネルディスカッションでは、柳川教授をコメンテーターに、徳島県の飯泉嘉門知事、徳島大学名誉教授の島健二川島病院名誉院長、NPO法人あいずみスポーツクラブの鍋島龍夫会長、徳島大学からは大学開放実践センターの田中俊夫教授、病院リハビリテーション部の高田信二郎副部長をパネラーに迎え、健康運動に向けた活動や今後の対策について意見が交わされました。

プログラムの最後には、参加者全員による「阿波踊り体操」で盛り上がり、「健康運動」についての認識を高めました。

■徳島大学、徳島県と医療提携の合意書締結

去る10月16日、県から飯泉嘉門知事や塩谷泰一病院事業管理者、大学側からは青野敏博学長や香川征病院長らの出席のもと、徳島県立中央病院と徳島大学病院が医師育成などソフト面で連携し、地域医療再生や効率的な病院運営に取り組むための合意書を締結しました。

今回の合意では、両病院は「二つで一つ」をコンセプトに、

○県南部の医療充実など「県地域医療再生計画」に盛り込まれた事業

○地域・救急医療を担う医師育成

○新生児集中治療室（N－CU）など周産期医療の拠点化、中央病院の小児救急医療拠点化

○がん診療の充実に向けた機能整備や県西部への医師派遣といった人的支援

など、6項目について連携して進めることとなりました。

また、医薬品や診療材料の共同交渉のほか、高額医療機器の共同利用、24時間運営する保育所の共同運用などにも段階的に取り組むこととしています。

■叙勲

平成21年秋の生存者叙勲を次の方が受章されました。

瑞宝中綬章
一條 義博
元徳島大学教養部長
徳島大学名誉教授 教育研究功労

瑞宝中綬章
前岩 道彦
元徳島大学医学部長
徳島大学名誉教授 教育研究功労

瑞宝中綬章
瀬藤 芳房
徳島大学名誉教授 教育研究功労

瑞宝中綬章
檜澤 一夫
徳島大学名誉教授 教育研究功労

■高井文部科学大臣政務官が徳島大学を視察

高井文部科学大臣政務官、森政務官秘書官、国立大学法人支援課の羽鳥専門官が11月2日に生命科学に関する施設が集積している徳島大学蔵本キャンパスを訪れました。

臨床技能の実習の充実のために設けられた医療教育開発センター内のスキルスラボで施設の説明を受けた後、今年6月に全国共同利用・共同研究拠点「酵素学研究拠点」として文部科学大臣から認定された疾患酵素学研究センターを視察し、木戸センター長から、同センターが研究を推進している新型インフルエンザの粘膜ワクチンの開発などについての説明を受け、熱心に聞き入っていました。

■「つるぎ町タウンミーティング」開催

11月14日、美馬郡つるぎ町のつるぎ町就業改善センターにおいて、「地域の魅力発信ー（新しい観光）スローツーリズムの可能性ー」をテーマにタウンミーティングを開催しました。

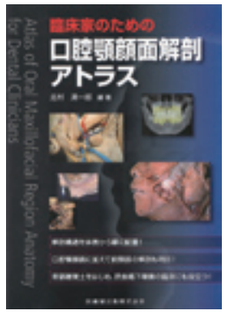
徳島大学と徳島地域連携協議会の主催、つるぎ町およびつるぎ町合併5周年記念事業実行委員会の共催により、昨年の佐那河内村に引き続き第6回目の開催となったもので、約60人が参加しました。

第一部の和歌山大学観光学部大浦由美准教授による基調講演「森林資源を活用したツーリズム」に続き、第2部の車座談義では、つるぎ町の観光案内人、つるぎ町まちづくりグループでつるぎ人の会長、徳島大学の地域再生や景観工学を専門とする教員から、つるぎ町の持つ資源と魅力を再認識し、全国へ情報発信することの大切さなど、それぞれの立場から意見が述べられました。

また、会場には、つるぎ町の魅力の1つである「巨樹」の写真パネルが展示され、参加者の目を引いていました。

マイ・ブック［自著紹介］ My Book

臨床に役立つ解剖学！



これが私の解剖学講義のキャッチフレーズです。

本書は、歯科医学生、あるいは高度で安全な歯科医療を目指す歯科医師や口腔外科医の皆さんに、より役立つ解剖学の知識を提供すべく作られました。また、食べる機能の障害（摂食嚥下障害）に取り組む医療従事者の方々にも十分に役立ちます。

掲載された多数の解剖写真のほとんどは、私自身が解剖して撮影したもので、20年近くの月日を要しています。歯科医師の目で口腔顎顔面領域の解剖構造を見直した、従来にない解剖アトラスで、前半は、部位毎の解剖構造が体表から順に層毎に示されており、後半は、総義歯治療、インプラント治療、局所麻酔、抜歯などの臨床テーマ毎に、必要な解剖学的事項が示されています。全編を通して、臨床面からの記載や写真は、共著者である徳島大学歯学部の臨床医の方々に協力いただいています。臨床手技のエビデンスを解剖学の立場から分かり易く解説しており、発刊後3ヶ月で、増刷されました。

12年前に、全身を対象に「鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス」を発刊しました。本書は、私としては第2弾目の解剖アトラスです。肉眼解剖学を専攻する数少ない解剖屋の一人としては、アトラス作製という、気の長い地味な仕事を許して下さった徳島大学に感謝しています。

『臨床家のための口腔顎顔面解剖アトラス』
出版社：医歯薬出版株式会社
発行年：2009年
編著者：北村清一郎
価格：10500円

大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
口腔顎顔面形態学分野
北村 清一郎
きたむら せいいちろう